

記録映像から見る人と自然の関わり (2)

中路武士

The Human and Nature Relationship in Documentary Films (2)

NAKAJI Takeshi

鹿児島大学学術研究院法文教育学域法文学系
Faculty of Law, Economics and Humanities, Kagoshima University

要旨

奄美群島における人と自然の関わり、地域住民と社会の関わりは、どのように記録され表象されてきたのだろうか。地域映像の調査・収集を奄美群島で実施し、デジタル技術によって修復・保存を行い、徳之島(鹿児島県大島郡天城町)の地域映像のアーカイブ構築研究を実施した。

はじめに

奄美群島に住まう人々の生活や自然の風景の記録を文化資源として保存し、土地の記憶を未来へと繋げていくために、地域映像は貴重な歴史資料としての価値を有している。「たとえ題名を持たない断片的な映像でさえ、歴史の資料として無価値ではない」(岡田 2016: 52)、それゆえ地域映像アーカイブの可能性は「全国各地で大いに検討されるべき」(岡田 2016: 54)なのである。さらに、奄美群島に固有のヴァナキュラーな表象の分析から得られる知見は、民俗学や人類学に寄与すると考えられる。しかし、奄美群島を記録した映像の多くは、高温多湿の気候の影響もあり、散逸し消失してしまっているのが現状である。そこで本研究では、奄美群島にわずかに残された記録映像を調査・収集し、株式会社東京光音の協力のもと、デジタル技術による修復・保存を行うことで、地域映像のアーカイブ構築研究を実施した。

徳之島の「麦つき唄踊」と「闘牛」の地域映像アーカイブ構築

徳之島(鹿児島県大島郡天城町)にて、中央公民館の解体にともなう資料整理の際、「1/2オープンリール」という、今日では極めて珍しい記録形式のビデオテープが7本発見された。経年劣化の影響による変形やカビ、折れやひび、貼り付きのため、もはや再生不可能な状態であったそれらの媒体を、天城町教育委員会から預かり受け、そこに記録された映像の内容を調査した。その結果、これらの映像には、1970年代から80年代頃にかけての町議会や学校教育の様子のほか、天城町の伝統芸能「麦つき唄踊」と「闘牛」の様子が記録されていることがわかった。

本研究では、「麦つき唄踊」と「闘牛」の映像のデジタル化を実施した（図1～図4）。

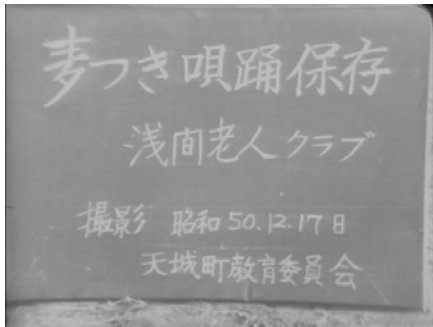


図1「麦つき唄踊」



図2「麦つき唄踊」



図3「麦つき唄踊」



図4「闘牛」

考察と纏め

「麦つき唄踊」の映像は「浅間老人クラブ」によって1975年に記録されていた。「麦つき唄踊」は、浅間集落の人々に唄い踊られてきたもので、1976年に天城町の無形文化財に登録された。約200年前、沖永良部へ赴任の途中台風に遭い、浅間の湾屋港に避難した島津の代官種子島次郎左右衛門他2名の役人に披露され賞賛された唄踊である（鹿児島県2009）。この映像をデジタル修復・保存することによって、今日から約40年以上も前に記録された「麦つき唄踊」の様子を分析することが可能となった。また、現在まで継承されている「闘牛」の様子を記録した映像も観察することが可能となった。これらの映像は、徳之島の伝統文化、奄美群島の人と自然の関わりを研究するために貴重な歴史資料になると考えられる。

引用文献

- 岡田秀則 2016. 映画という《物体X》——フィルム・アーカイブから見た映画. 256頁, 立東舎, 東京.
- 鹿児島県 2009. 麦つき唄. <https://www.pref.kagoshima.jp/ab10/kyoiku-bunka/bunka/museum/shichoson/amagi/mugi.html>. [最終閲覧日: 2017年12月25日]